

五体合璧夜巡牌女真大字考釈

吉本智慧子

Abstract

The pentalingual night inspection tablet and the Jurchen script identified on it introduced in this paper have never been recorded since the Yuan era, and never reported to collectors and scholars today. It is the only one cultural relic with important historical values. It not only certifies that the Jurchens still used the ethnic script of their own in the Yuan era after the ruin of the Jin dynasty, but also certifies that the Yuan dynasty authorized the Jurchen large script as an official letter as well as Uighur-Mongolian, 'Phags-pa pa, Chinese, and Arabic letters by finding on the night inspection tablet used for official service. Especially, the finding of the Jurchen large script overcomes the present state that materials in Jurchen large script ever found are only from the Jin and the Ming eras, admirably fills the missing link over 180 years of the Jurchen script from the Nüzhen Jinshi Timingbei in the latest years of the Jin era to the Siyiguan Nüzhen Yiyu in the early Ming era, has an epoch making significance that adds a chapter to the cultural history of the Jurchens.

Keywords : 女真大字, パスバ文字, ウイグル式モンゴル文字, アラビア文字, 夜巡牌

はじめに

本稿で紹介する元朝時代に製作された五体文字合璧の銅製の牌子及びその中から確認された女真大字は、元代以後の文献に収録されておらず、現代の収蔵界や学界にも報告されていない、いままでで唯一無二の重要な史料的价值を有する文物である。以下、行文の便を図るために「女真大字夜巡牌」と略称しておく。

2012年、筆者は中国東北部におけるフィールドワークの際、この「女真大字夜巡牌」を発見し、収蔵者より写真の提供と解説の依頼を受けた。筆者が解説するまで、収蔵者及びその写真を目にしていたものはみな、パスバ文字が出現することに基づき銅牌が元代の遺物であるという見解を共有していたが、銅牌に鑄銘された女真大字は悉く契丹文字と誤認していた。

「女真大字夜巡牌」の発見は、金王朝滅亡後の女真人が元の一代において自民族文字を持続的に使用していたことを証するのみならず、女真大字が公務執行に使われた夜巡牌に現れることによって、元朝政府がそれをウイグル式モンゴル文字・パスバ文字・漢字・アラビア文字などと同様に公用文字として認めていたことをも証する。とくに女真大字の解明は、いままでに発

見された女真大字資料が金・明二王朝に限られていた現状を打破し、金末の『女真進士題名碑』から明初の『四夷館女真訳語』にかけての180余年の間における女真文字の空白状態を見事に補う快挙であり、女真民族の文化史に色濃い一章を書き加える画期的意義をもつと言える。

1. 「女真大字夜巡牌」の型式

銅牌には浮き彫りになったウイグル式モンゴル文字・パスパ文字・アラビア文字・女真大字の4種語面(図1a)と漢語面(図2a)があり、いずれも「夜・巡察する・牌」の対訳である。高さ17.4cm、円形部の直径14.2cm、厚さ0.7cmで、4種語面が磨損のせいか薄くなっており、字形の一部ははっきりとは読み取れなくなっている。銅牌は取っ手部と文字が鑄込まれた円形部からなる。取っ手の両面ともに唐草紋様の浮き彫りがデザインされており、その中央に円形の紐通し穴が開けられたカバンの提げ手のような造形を示している。全般的なスタイルは、1985年に中国内蒙古自治区興安盟科爾沁右翼中旗において発見されたウイグル式モンゴル文字・パスパ文字・アラビア文字の一面(図1b)と漢字・チベット文字の一面(図2b)をもつ銅製の夜巡牌(以下、「科右中旗夜巡牌」と略称する)と比較すると、両者がよく似通っていることがはっきりする。

銅牌の一面に楷書漢字「夜巡牌」、一面にその対訳となるウイグル式モンゴル文字・パスパ文字・アラビア文字・女真大字が6行に書かれており(ウイグル式モンゴル文字とパスパ文字はともに2行ずつ)、左から右の順に並べられている。元王朝の「国字」とされるパスパ文字が存在する面が表、漢字のみの面が裏ではないかと考えられる。このように両面の文字を加えると5種にも達することは、これまでに発見された元代の多文字刻銘遺物において、「科右中旗夜巡牌」と同等であり、さらに、現存のあらゆる夜巡牌に見えない *söni* (夜) のモンゴル語表記が出現することや、とりわけ女真大字がその中に初登場したことは、まことに同類の牌における至宝と言える。

2. 「女真大字夜巡牌」の転写

銅牌の表面に左から縦書きにされた最初の2行は、ウイグル式モンゴル文字である(図3a)。その次の2行は、パスパ文字である(図4a)。両種の文字が表記するのはともに「夜・巡察する・牌」のモンゴル語だが、パスパ文字は3行目から4行目への改行のところで、動詞 *muquriqu* を二つに割ってしまっており、その前半分 *muqu-* を3行目の終わりに、*-riqu* を4行目の始めに置いている。

行数からすれば、2行のパスパ文字は牌面の6行の文字の中央の位置にあるはずだが、ウイグル式モンゴル文字とパスパ文字(とくに前者)の字形が細いため、この4行の文字は結局に牌の左半分には偏っており、右半分はそれぞれ1行しかないのに字形が大きく鑄込まれたアラビア文字(図5a)と女真大字に等分されている。

国際音声字母で転写すると以下の如くである¹⁾。

行	1	2	3	4	5	6
モン ゴル	söni 夜					
モン ゴル		muquriqu kerege 巡察する 牌				
パスパ			söni muqu- 夜 巡察する			
パスパ				-riqu k'ere-e 牌		
アラ ビア					ärsäd šab gašt päřät 夜巡者夜歩く牌	
女真						dolwor soguru pai 夜 巡察する 牌

3. 「女真大字夜巡牌」の釈読

6個の楷書体陽文の女真大字は、1行に縦書きで3個の女真単語を構成することによって「夜巡牌」という意となっている。

序	女真大字	表音字の音価	構成させた女真語	意味
1	𐰇	dolwo	dolwor	夜
2	𐰇	or		
3	𐰇	so	soguru	巡察する
4	𐰇	gu		
5	𐰇	ru		
6	𐰇	pai	pai	牌 [漢語訳音]

第1の𐰇は、明初四夷館で編纂された『女真訳語・雑字』時令門に見えており、『明代の女真人—《女真訳語》から《永寧寺記碑》へ—』²⁾の「『女真訳語・雑字』に見える表意字・不完全な表意字・表音字」一覧表（以下「一覧表」と略称する）における第113号に当たる。

第2の𐰇は、『女真訳語・雑字』時令門と通用門に見えており、一覧表の第511号に当たる。

𐰇は、本来 dolbor（夜）の表意字であり、金初に編纂された『女直字書』（現存抄本12枚）時令方隅門に初見し、のちに dolbo-のみを示す「夜」の不完全な表意字及び「夜」と無関係の語頭音節 dol-の表音字に用いられた。dolbo-に orを示す語尾表音字𐰇を付け加える𐰇𐰇によって「夜」の意を表すことは、金代石刻にすでに現れている³⁾。おそらく金代中葉以降、ある女真語方言において dolbor から dolwor へと音韻変化が出現し、文字形式は以前のままの𐰇𐰇を維持しているが、実際の音声はすでに dolwo- + or → dolwor になっている。この dolwor は、一覧

表の第128号に当たる。

第3の^ㄗは、『女真訳語・雑字』方隅門に見えており、一覧表の第544号に当たる。

第4の^ㄨは、『女真訳語・雑字』珍寶門・聲色門・人物門・鳥獸門・器用門・身體門・人事門に見えており、一覧表の第290号に当たる。

第5の^ㄗは、『女真訳語・雑字』人事門・續添・新增に見えており、一覧表の第520号に当たる。

^ㄗは、本来禽類名を示す表意字で、『女直字書』鳥獸門・禽類②に見えるが、それ以降の女真大字資料においてはso音節を示す表音字としての用例がほとんどである。^ㄨは、最初の表意的用法である獸類名が『女直字書』鳥獸門・獸類に見え、のちにgu音節を示す表音字として用いられた。^ㄗは、最初の表意的用法である飲食名が『女直字書』飲食門に見え、現存女真大字資料における用法のほとんどは形動詞現在未来形の語尾として機能する-ruである。

以上の三つの表音字を組み合わせる^ㄗ^ㄨ^ㄗsogu-ruのsogu-が動詞の語幹で、-ruがその語尾であることは明らかである。この-ruは、モンゴル語の同語義の語尾-^ㄗ-^ㄨと同等に名詞（銅牌の場合には「牌」）の修飾語として用いられる。女真語sogu-ruは、銅牌のモンゴル語muquri-^ㄗ・ペルシャ語gašt・漢語「巡」に対応することで、やはり「巡察する」に近い意味を示すに違いないが、現存女真大字資料には見られない。満洲語で「夜を巡察する」と言えば、dabori giyari-^ㄗとなり、giyari-と意味的に近いものにはkedere-もあるが、やはりどちらも女真語のsogu-と同源ではない。この点は、muquri-^ㄗが中世モンゴル語（主に漢字音訳『元朝秘史』及びパスバ文字・アラビア文字などによる資料が属する13-14世紀）に一度しか出現せず、それ以後の消息がないこととよく似ている。muquri-^ㄗは、『元朝秘史』§278において「木^ㄗ忽^ㄗ里^ㄗ・秃^ㄗ孩」に音写され、「巡者」が傍注され、小沢重男式ローマ字転写に従えばmuquri-tucaïとなる。-^ㄗ-^ㄗは第三人称命令形の男性語尾（女性はtügei）である。

雪泥^ㄗ必丹突^ㄗ兒^ㄗ客^ㄗ帖兀^ㄗ 豁那秃^ㄗ孩^ㄗ 額兀闌突^ㄗ兒^ㄗ 格^ㄗ命^ㄗ 豁^ㄗ兒^ㄗ臣^ㄗ 客^ㄗ帖兀^ㄗ

夜 咱 行 宿衛 宿者 門 行 房的 周圍 宿衛

söni bidan-dur kebtægül qonotucaï, egüden-dür ger-ün orcim kebtægül

夜は 我々の処に 宿直兵が 泊るよう。 戸帳の処に テントのまわりに 宿直兵は

擺亦秃^ㄗ孩^ㄗ 幹^ㄗ兒^ㄗ朵因^ㄗ 豁亦納温^ㄗ 兀^ㄗ里^ㄗ答温^ㄗ 客^ㄗ帖兀^ㄗ 木^ㄗ忽^ㄗ里^ㄗ秃^ㄗ孩^ㄗ

立者 宮的 後行 前行 宿衛 巡者

bayitucaï, ordo-yin qoyinaqun uridaqun kebtægül muquritucaï

立っているよう。宮居の 後を 前を 宿直兵を 巡回するよう。

注目すべきは、「女真大字夜巡牌」のウイグル式モンゴル文字muquriquの綴り方であり、この語に二度出現するqu音節は語中形^ㄗと語尾形^ㄗにされており、同類の夜巡牌において、例えば「科右中旗夜巡牌」と「王府夜巡牌」に見える同語のqu音節が悉く^ㄗまたは^ㄗにされることと異なっている。照1994によれば、頭子音q-を^ㄗで表すのはウイグル式モンゴル文字の早期正字法に見える特徴であり、元代の文献・刻銘にはさほど類出ししないものとのことである。

第6の^ㄗが銅牌に現れることは、^ㄗ^ㄨ^ㄗと同じく女真文字研究史上における画期的な大発見

と言える。𠂔は、現存女真大字資料には出現していないが、銅牌に書かれた位置からその音価が漢字「牌」に当たることがたやすく判明する。ただし、それが「牌」の女真語対訳かあるいは漢語音訳かについては、現存女真大字資料を手がかりに検討せねばならない。『女真訳語・雑字』器用門に「令牌」と訳し、「扎失安肥子」と注音される𠂔𠂔𠂔𠂔がある。「扎失安」は𠂔𠂔𠂔𠂔 dʒaʃiyan の注音で、『金史』国語解に記される「札失哈」つまり金代女真語の dʒaʃiga に当たる。この語は金初の『女直字書』書信字類に初見し、「手紙」を本義とするモンゴル語 dʒakiya(n) と同源でもあるので、「肥子」は𠂔𠂔𠂔𠂔の注音 fai-si つまり漢語「牌子」の近似表記であることがわかる。問題は、「牌」に当たる𠂔の音価が『女真訳語』に齟齬をきたす2種のまったく関係がない注音をなしていることにある。この問題について、筆者はかつて『明代の女真人—《女真訳語》から《永寧寺記碑》へ—』において詳論を施したが、ここにその一部を引用しておく。

「𠂔は、『女真訳語』身体門 11・器用門 55・人事門 39/40 の四カ所に見える。「眉」の語頭字と漢語借用語「牌」に使う場合、その音価は fai であるが、動詞「回」「還」の語幹音節を表す場合には、muta になってしまう。両者のどちらかに誤りがあるに違いない。𠂔の字形と相似している字は、『蒙古九峰石壁石刻』における動詞「帰る」の語幹字に用いられ、その字はまさに muta の本字であり、fai を表す本字は別にあるはずである。両者を取り間違っていることも、やはり形が近いためであるといえる。」

今、銅牌に鑄込まれた𠂔の出現から、漢語「牌」の音訳に当たるのがまさに別の字形とされる𠂔であることがわかり、𠂔が muta、𠂔が pai (→ fai) であることが最終的に実証された。従って、『女真訳語』に用いられた女真大字の総数は現存のテキストによって統計された 699 字ではなく 700 字を超えるはずだという筆者の最初の推論に確実な傍証を改めて提供している。

『金史』によれば、金太祖収国二年 (1116) にすでに金牌の製作が始まり、のちに銀牌・木牌の製作が相次いだとのことだが、これまでに出土した金代に推定される牌子には、「牌」の意訳または音訳と思われる字がまだ出現していない。書面満洲語において「牌子」が šusihe と意訳されるのは普通だが、民間の写本や口語においては「牌子」を paiza または paise とするような音訳例も稀ながら存在している。šusihe はもとより木製の札類を指すものであり、paiza (paise) は『女真訳語』に記される「肥子」で注音する𠂔𠂔𠂔𠂔 fai-si と同様に漢語「牌子」の音訳に由来するものである。銅牌第 2 行に見えるウイグル式モンゴル文字 kerege と第 4 行に見えるパスパ文字 k'ere.e が示すモンゴル語は、ウイグル式モンゴル文字の元代碑文では altan kerege (金牌) に用いられることが見えるだけで⁴⁾、元代以降の書面モンゴル語では「牌」としての意がなくなり⁵⁾、代わりに漢語音訳の paiza を用いるようになっている。ここで、漢語「牌」との対訳語としての女真・満洲及びパスパ・モンゴル諸文字における推移を下表にまとめておく。

文字	金代	元代	明代	明以後
女真 満洲		pai	fai-si	šusihe / paiza (paise)
パスパ モンゴル		k'ere.e kerege		paiza

4. 「女真大字夜巡牌」の使用区域及び製作年代

いままでに発見された元代制作の公務用の牌は、その形状より分類すれば円形と長方形の二種があり、その材質より分類すれば金・銀・銅・鉄製の四種がある。円形で金製もしくは銀製の牌は、『元史』に「金字圓符」もしくは「銀字圓符」とあり⁶⁾、いずれも軍政急務の際、公文書を早馬で運送するための駅通符証、あるいは公務執行の際、職権範囲を証明するものである。すでに出土した「金字圓符」や「銀字圓符」に相当するもののほとんどは鉄製で文字表面に金箔や銀箔を施したもの⁷⁾だが、「女真大字夜巡牌」と「科右中旗夜巡牌」だけは銅製で、文字に金や銀をメッキした痕跡が見られない。史書の記述や出土文物の欠缺を補填する価値の大きさは言うまでもない。

夜巡とは、夜間に行われる巡察・警備などの公務を指すもので、「夜巡」と鑄銘する円牌は、まさに『元史』巻一百一／兵志四／站赤に「其夜禁之法，一更三點，鐘聲絕，禁人行。五更三點，鐘聲動，聽人行。有公事急速及喪病產育之類，則不在此限。」とある元代の「夜禁」制度の産物にほかならない。

「女真大字夜巡牌」の牌面には使用区域や製作年代にまつわる歴とした証拠は認められないが、女真大字が出現することだけで、まずはその使用区域が金代から女真文字を習う伝統を終始保っていた東北地区であり、そこに住んで漢民族に同化されていない女真人を対象に使用するものであったことが確定できる。こうした推定は筆者がこの牌を実見した地域に吻合している。元代に東北地区に留まっていた女真人、ことに東北北部諸王テムゲ・オッチギン（チンギス＝ハーンの三弟）の分地内の女真人（興安嶺東麓・マンチュリア北部に住んでいた）は、合蘭府水達達路に隸属し、元王朝の「各仍旧俗」「随俗而治」（『元史』巻五十九地理志二）という統治下におかれていた。『涵芬樓秘笈』第四集所収の『華夷訳語』の跋文（孫毓撰、民国七年[1918]）によれば、漢語とモンゴル語との対訳語彙集である『至元訳語』のほかに、元代ではなお女真訳語を含む十三国訳語を編集したことがあり、その記述は、まさに当時の女真文字が女真人の間に通用されていた証拠となっている。

いままでに発見された元代の多文字の巡察に用いられた牌は、その年代が確定できるものや推定されるものはみな元順帝時代に属する。例えば、上掲の五体合璧「科右中旗夜巡牌」の裏面（図2b）には、中央の漢字「元」を取り囲んでチベット文字 nub-mo'gro-ba'i sgor-mo⁸⁾（夜・歩く・牌）と漢字「天字拾二號夜巡牌」が左右に鑄銘されているが、順序表示の機能をもつ「天字」の「天」は梁・周興嗣編『千字文』の冒頭「天地玄黄，宇宙洪荒」に由来するもの⁹⁾で、それを手がかりに、黄浚編『尊古齋金石集・乙』に載せる円形「省府巡牌」¹⁰⁾の拓本に見える「天字廿六號」「至正二十五年 月 日」に照らし合わせて見ると、「科右中旗夜巡牌」は年代的に至正二十五年（1365）よりすこし前にあると考えられる。1960年代に揚州で出土した「宣慰使司都元帥府夜巡牌」¹¹⁾にも漢字「玄字拾號」があるが、その年代は元順帝至正十五年（1355）二月に天長県に「淮東等処宣慰使司都元帥府」を設置した以後と推測される。さらに、後文に挙げる「王府夜巡牌」（ウイグル式モンゴル文字・パスパ文字・アラビア文字・漢字の四体合璧）に鑄込まれた「至正二十二年五月 日置」も、同じ元順帝時代と証される。本稿が取り上げる五体合璧の「女真大字夜巡牌」は、鑄造型式から文字数まで「科右中旗夜巡牌」と最も似通っ

ており、両者の製作年代はさほど離れていないであろう。つまり同じ元順帝時代に属するものと推定しうる。

5. 四体合璧「王府夜巡牌」

多文字の刻銘遺物は元代ではまれではない。しかし1985年に科右中旗で五体合璧夜巡牌が出土する以前のほとんどの遺物は四体文字に限られる。代表的なものを例として挙げると、2007年に収蔵者が筆者にその写真を提供した銅製の四体合璧「王府夜巡牌」がある。近年、ウェブ上で「王府夜巡牌」に類似した写真が公開されるようになって、牌に鑄銘された文字も「解読」されたりしているが、それは想像に任せたものというよりない¹²⁾。ゆえに、この牌の文字を正確に復元し、あわせて考証を施すのは、本稿が初めてである。

「王府夜巡牌」は上がアーチ状、下が長方形で、正面上部の取っ手に葉っぱ紋様がデザインされており、下部の牌面文字につながる場所に長方形のまぐさのような枠が鑄込まれており、中に篆書風の「王府」2字が横書きされている。牌面の文字はすべて陽文鑄銘で（図1c）、正面の文字が左から右への順に、

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| ①パスパ文字（図4c） | muquriqu k'ere-e（巡察する・牌） |
| ②篆書漢字 | 夜巡牌面 |
| ③ウイグル式モンゴル文字（図3c） | mucurigu kerege（巡察する・牌） |

と浮き彫りされている。

裏面上部の取っ手の造形は正面とやはり同様で、取っ手下部の枠に楷書風の「王府」2字が横書きされている。牌面の文字は（図2c）同じく3行で、中央は漢字、両端はアラビア文字である。左より読めば、

- | | |
|--------------|----------------------------------|
| ①アラビア文字（図5c） | ärsäd šab gašt pärät（夜巡者・夜・歩く・牌） |
| ②楷書漢字 | 至正二十二年五月 日置 |
| ③アラビア文字（図5c） | ärsäd šab gašt pärät（夜巡者・夜・歩く・牌） |

となっている。

「至正」（1341-1367）は元順帝の三番目の年号で、「至正二十二年」は西暦1362年に当たる。その年の五月につき、『元史』卷四十六／順帝本紀九には簡単な記事のみが記されている。

五月乙巳朔，泉州賽甫丁據福州路，福建行省平章政事燕只不花擊敗之，餘衆航海還據泉州。福建行省參知政事陳有定復汀州路。己未，中書參知政事陳祖仁上章，乞罷修上都宮闕。辛酉，太陰犯建星。辛未，明玉珍據成都，自稱隴蜀王，遣偽將楊尚書守重慶，分兵寇龍州・青州，犯興元・鞏昌等路。是月，張士誠海運糧一十三萬石至京師。

しかし、銅牌に現れる「至正二十二年」という確実な年代は、パスパ文字が元世祖至元六年（1269）の製作以後、元順帝至正二十二年（1362）にいたるまで一世紀近く使用されていた証拠となり、パスパ文字でモンゴル語を音写する下限を至正十二年（1352）とする従来の推定説¹³⁾をさらに十年ほど下すことになる。

6. 契丹と西夏の円牌

上掲の数種の元代円牌と形状に近い牌子は、契丹や西夏の遺物にも見られる。西夏文字で「火急馳馬」と書かれている銅製の牌子¹⁴⁾は、明らかに一種の駅通符として機能するものとなしうる。ところが、契丹大字を鑄込んでいる銅牌¹⁵⁾は、厚2mm、直径43mmで、十二支の一部の契丹語名及び十二支の凶形をそれぞれ表・裏に鑄込んでいることから、官衙の職能とは関係なく単なる一種の装飾品もしくは護符にほかならない。しかもその発見地は南カザフスタンであり、その年代も必ずしも遼朝ではなく西遼ないしその後の時代に属するものと考えられる。

注

- 1) 女真大字・パスパ文字・ウイグル式モンゴル文字・アラビア文字の転写は、各分野の重鎮である金光平先生・金啓琮先生・照那斯図先生・郝蘇民先生・劉文性先生の研究成果を参考にした。ことに故人である金光平先生・金啓琮先生と照那斯図先生のすぐれた業績が永遠に後学の指南たりうことは感銘にたえない。
- 2) 愛新覚羅烏拉照春著、京都大学学術出版会、2009年。
- 3) 「金上京女真大字石刻考」、拙著『愛新覚羅烏拉照春女真・契丹学研究』（松香堂、2009年）所収。
- 4) 道布編『回鶻式蒙古文獻彙編』、民族出版社、1983年。p.212（照1994）。
- 5) keregeは書面モンゴル語においては gere と読み、その意味も「公約・条約・証拠」などに変わっている（照1994）。
- 6) 『元史』卷一百三／刑法志二／職制下「諸朝廷軍情大事，奉旨遣使者，佩以金字圓符給驛，其餘小事，止用御寶聖旨。諸王公主駙馬亦為軍情急務遣使者，佩以銀字圓符給驛，其餘止用御寶聖旨。」
- 7) 郝蘇民「関于西藏發見的八思巴字圓牌」（『蒙古語文』，1981-2）に載るチベット・シガツェのタシルンボ寺所蔵の圓牌は鉄製に金字。N.Poppe, *The Mongolian monuments in the 'Phagspa script*, 1957, p.58 に載る The Bogotol p'ai-tzu は鉄製に銀字。それぞれ『元史』が記述する「金字圓符」と「銀字圓符」に当たる。
- 8) 張濟川先生の転写による（照1994）。
- 9) 元朝の符牌制度は金朝から承継したもので、その番号を『千字文』の順とすることは、『元史』卷一百一／兵志四／站赤に載せる元世祖が中統元年（1260）に發布した詔書に見える。「中統元年，詔：隨處官司，設傳遞鋪驛，每鋪置鋪丁五人。各處縣官，置文簿一道付鋪，遇有轉遞文字，當傳鋪所即注名件到鋪時刻，及所轄轉遞人姓名，置簿，令轉送人取下鋪押字交收時刻還鋪。本縣官司時復照刷，稽滯者治罪。其文字，本縣官司絹袋封記，以牌書號。其牌長五寸，闊一寸五分，以綠油黃字書號。若係邊關急速公事，用匣子封鎖，於上重別題號，及寫某處文字・發遣時刻，以憑照勘遲速。其匣子長一尺，闊四寸，高三寸，用黑油紅字書號。已上牌匣俱係營造小尺，上以千字文為號，仍將本管地境・置立鋪驛卓望地名，遞相傳報。」
- 10) パスパ文字・ウイグル式モンゴル文字・漢字の三体合璧。パスパ文字とウイグル式モンゴル文字が表記するのはともに漢語「本省巡牌」の音訳に過ぎず、モンゴル語ではない。
- 11) パスパ文字・アラビア文字・漢字の三体合璧。正面左のパスパ文字が表記するのはモンゴル語の muquriqu k'ere-e（巡察する牌）。裏面中央の「宣慰使司都元帥府夜巡牌」の左に「持此夜行」と「玄字拾號」、右に「公務急速」の漢字がある。
- 12) 本来「巡察する牌」のモンゴル語表記であるべきパスパ文字とウイグル式モンゴル文字を、漢語表記と誤判した上に想像を加えてそれぞれ「暮出日可行」と「違者治罪」という分けもわからない「解説」

を施している。

- 13) 蔡美彪「陝西省周至重陽万寿宮聖旨碑」,『元代自治碑集録』(科学出版社, 1955年)所収。
- 14) 拙作「女真小字金牌・銀牌・木牌考」,『愛新覺羅烏拉熙春女真・契丹学研究』(松香堂, 2009年)所収。
- 15) 拙著『契丹語辞典(Ⅰ)』(文科省科研費基盤研究(C)平成22年度研究成果報告書)所収。

【附録】現存女真大字資料（石刻・紙資料）目次

一 石刻

- 1 慶源郡女真大字碑（金熙宗天眷元年 [1138] または皇統元年 [1141] 七月二十六日）
- 2 海龍女真大字石刻（金世宗大定七年 [1167] 三月某日）
- 3 大金得勝陀頌碑（金世宗大定二十五年 [1185] 七月二十八日）
- 4 昭勇大將軍同知雄州節度使墓碑（金世宗大定二十六年 [1186] 四月二十六日）
- 5 金上京女真大字勸学碑（金世宗時期）
- 6 蒙古九峰石壁女真大字石刻（金章宗明昌七年 [1196] 六月某日）
- 7 奥屯良弼詩石刻（金章宗承安五年 [1200]）
- 8 奥屯良弼餞飲碑（金衛紹王大安二年 [1210] 七月二十日）
- 9 北青女真大字石刻（金宣宗興定二年 [1218] 七月二十六日）
- 10 女真進士題名碑（金哀宗正大元年 [1224] 六月十五日）
- 11 ヒリジャラ謀克字董女真大字石函（金代中晩期）
- 12 永寧寺記碑（明成祖永樂十一年 [1413] 九月二十二日）

二 紙資料

- 1 女真文字書残頁 12 枚（金太祖天輔三年 [1119] ～金海陵王正隆五年 [1160] の間）
- 2 黒水城女真大字残頁 2 枚（金衛紹王大安三年 [1211] 以降）
- 3 四夷館女真訳語（明成祖永樂五年 [1407]）

参考文献

- 金光平・金啓琮 1964,1980 : 『女真語言文字研究』, 内蒙古大学出版社。文物出版社。
- 照那斯因 1994 : 「内蒙古科右中旗元代夜巡牌考釈」, 『民族語文』 1994-4。
- 郝蘇民・劉文性 1996 : 「關於科右中旗夜巡牌阿剌伯字母文字讀釈の再討論」, 『民族語文』 1996-3。



图 1a



图 1b



图 1c



图 2a



图 2b



图 2c

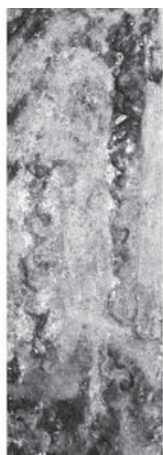


图 3a



图 3b



图 3c



图 4a



图 4b



图 4c



图 5a



图 5b



图 5c

